

コロナ禍における ESD 及び学校設定科目の探究活動

学校名 海星学院高等学校
校長名 堺 俊光
担当者名 市川 栄作

1 本校の ESD の特徴・学校設定科目の設置

本校は、室蘭市にある男女共学、全校生徒 219 名のカトリック系のミッションスクールであり、アメリカの修道会が約 60 年前に設立した。アメリカ修学旅行・語学研修や、北海道洞爺湖サミットあるいは豪華客船室蘭来航にともなう通訳ボランティア（外国人の観光サポート）などの国際理解における取組が評価され、2010 年 10 月にユネスコスクールとして認定された。本校は、「世の光となれ」をモットーに、ESD をミッションスクールの使命と捉え、持続可能な社会の担い手の育成するために、生徒の地球的諸課題および SDGs についての理解・コミュニケーション能力・奉仕の精神などの育成を目標に活動している。

本校の ESD は、①SDGs に係わる学習活動、②SDGs に係わる活動、③その他持続可能な社会の担い手の育成に係わる活動の互いに関連する 3 つの活動から構成され、これまで、国連専門機関・大学・NGO・地域のユネスコ協会などの諸団体と連携し、校内外で活動してきた。しかし、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、タイ王国の高校生との交流をする公益財団法人イオンワンパーセントクラブ「日本 アセアン ティーンエイジ アンバサダー事業」（2018-19）、フィリピン共和国での奉仕活動を行うカトリック札幌司教区「フィリピン ボランティア」（2019）を最後に、海外での生徒の活動はオンライン交流を除き、困難な状況になっている。また、国内での活動も同様で、生徒が諸団体と連携したり、校外で活動したりする機会は著しく減少している。

この状況の中、2021 年度から第 3 学年を対象に SDGs をテーマとする学校設定科目が設置された。2 活動全体計画では、この科目以外の活動について記載し、3 活動事例及び 4 成果と課題では、この科目で行った探究活動について報告する。

2 活動全体計画（2020-2021）

①SDGs に係わる学習活動

- ・一般社団法人 FACE to FUKUSHI 講演会「持続可能な社会と福祉」（第 1 学年：現代社会）
- ・ワークショップ「ハンガーバンケット」（第 1 学年：総合的な探究の時間）
- ・公益社団法人日本ユネスコ協会連盟「寺子屋リーフレット制作プロジェクト」（第 2 学年：社会と情報）
- ・公益社団法人日本ユネスコ協会連盟カンボジア・オンライン・スタディーツアー
- ・国際ソロプチミストアメリカ日本北リジョン S1 室蘭「夢を拓くプログラム」

②SDGs に係わる活動

- ・コロナ禍における地域飲食店の取組み紹介 YouTube 動画作成（一般社団法人登別室蘭青年会議所—SDGs とまちづくり）
- ・未使用はがき回収活動（公益社団法人日本ユネスコ協会連盟ユネスコ世界寺子屋運動）

- ・学用品回収活動（独立行政法人国際協力機構「世界の笑顔のために」プログラム）
- ・エコキャップ回収活動（特定非営利活動法人エコキャップ推進協会）
- ・リングプル回収活動（特定非営利活動法人「飛んでけ！車いす」の会）

③その他持続可能な社会の担い手の育成に係わる活動

- ・東日本大震災被災地（岩手県釜石市）へのメッセージカード送付
- ・社会福祉法人室蘭市社会福祉協議会雪かきボランティア事業

3 活動事例—SDGsをテーマとした学校設定科目「日本と世界」における探究活動—

【科目・単元の概要】

この科目は2021年度から第3学年に設置された持続可能な社会の実現を阻む諸課題について研究する学校設定科目（選択）である。2021年度は24名の生徒が履修した。

前期において、生徒はSDGsの概要や世界の貧困、児童労働、識字率の問題やその解決に取り組む国際機関やNGO、企業について、また探究手法（課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現）について、ワークショップを交えながら学んだ。

後期はその総括として、生徒は2回の探究活動に取り組んだ。2回の探究活動は、第1学年を対象にグループでポスターセッションを行う探究活動 α （14時間）と、個人でレポートにまとめる探究活動 β （10時間）からなる。ここでは、探究活動 α について、紹介する。なお、探究活動 α の課題設定においては、一般社団法人Think the Earthより寄贈された『未来を変える目標SDGs アイデアブック』（以下、アイデアブック）を活用し、探究活動 β の課題設定においては、『未来の授業SDGs ライフキャリア BOOK』（佐藤真久監修、2020）を活用した。

【単元の目標】

- ・アイデアブックを読み、持続可能な社会の実現を阻む諸課題、およびその解消に取り組む活動について理解を深める。
- ・持続可能な社会の実現を阻む諸課題、およびその解消に取り組む活動に関するグループでの探究を通じて、前期に学習した探究手法を活用する。
- ・ポスターセッションにおいて、探究活動の成果を下級生にわかりやすく説明する。

【期待する学習効果】

- ・持続可能な社会の実現を阻む諸課題、およびその解消に取り組む活動について基礎的な内容を理解する。
- ・持続可能な社会の実現を阻む諸課題、およびその解消に取り組む活動についての探究活動を通じて、課題を発見する・諸資料から有用な情報を適切に選択し読み取る・論理的にまとめた意見などを他者に分かりやすく伝えるなどの力を養う。
- ・持続可能な社会の実現に対する関心と意欲を培い、他者とともに主体的に探究に取り組む態度を育む。

【単元計画】

- 1-2 ガイダンス（全体の流れ）・アイデアブック精読
- 3 グループ編成（4人×6チーム）・精読からの学びや気づき、疑問点のグループ内共有・グループテーマ設定
- 4 グループによるテーマから探究する「問い」の設定・情報収集に関する役割分担決定
- 5 情報収集（※時間が足りない場合は時間外で収集するように指示した。）
- 6-7 ガイダンス（発表・まとめの流れ）・情報共有・発表アウトライン、ポスターラフ案の作成
- 8-11 ポスター作成作業
- 12-13 リハーサル(相互評価)
- 14 発表（ポスターセッション）

【指導上の留意点】

アイデアブックは、17の目標や、その目標に取り組む活動主体の情報が多すぎず、「もっと知りたい」と思わせるなど、巧みに読者の興味関心を高める仕組みがあり、生徒の興味関心は、各目標、現状を示すデータ、SDGs達成に向けたアイデアや取り組み主体などに向くことが考えられた。生徒の自由な思考を保障し、今後の探究活動を活発化させるために①アイデアブック精読を通じて、「自分が一番面白そう！と思ったこと」をチーム内で共有、②①を踏まえ、チームで採用するテーマを決定、③そのテーマをもとにブレインストーミングを実施し、沢山の「問い」を立てた中から、「気になる且つ調べてもすぐに答えがわからない」もの一つに絞る、④絞った問いを磨く（言葉の定義を明確にする）という手順を採用した。実際にテーマはグループによって多様であった。

【生徒が設定した探究の「問い」(一部)】

- ・先進国のゴミ廃棄率を減少するには何が必要か？
- ・日本でのDVやいじめから被害者を救うにはどのような行動をすれば良いのか？

- ・海上でのゴミ回収は生態系に悪影響を及ぼすのか？

アイデアブックの精読



収集した情報の共有



下級生を対象に発表



4 成果と課題

【生徒の振り返り（一部）】

- ・情報収集において、詳細情報や時代背景を確認しながら、矛盾が無いようまとめられた。
- ・社会で起こっていることを学び、自分にできること（募金など）ができるようになった。
- ・SDGs等のテレビ番組や町にある看板を見て、考えるようになった。
- ・自分が強調して伝えたいことを表現することができた。
- ・明確な根拠をもって、相手に伝わる様に発表の設計ができた気がする。
- ・SDGsが私の中で当たり前の存在になり、日々、自分にできること・やらなくてはならないことを考えられるようになった。
- ・問題を見つけて、対策を考えたいという流れが身についた。
- ・SDGs達成に向け行われている活動に参加したいと思えるようになった。
- ・聞き手に詳しく説明することはできたが、多くの観点から説明できていなかった。
- ・資料の読み取りが早くなり、まとめの時の内容の深さにつながった。
- ・家庭でSDGsについて話す機会ができた。

【成果と課題】

上記の通り、自己の成長を感じる振り返りが多く、ほぼ全ての生徒が、主体的に協働して活動でき、概ね目標を達成した。下級生を対象とした発表において達成感を得られた生徒も多く、探究活動βに向けての学習意欲が高まった。また、この科目履修者全員で具体的なSDGsに対するアクションを実施したいと要望する生徒が複数現れた。

グループでの探究活動は生徒も実践者も手応えを感じる一方で、学年末に実施した個人でレポートをまとめる探究活動βでは、言葉の定義や「いつ、どこで、何を対象に」などがあいまいな探究課題の「問い」の設定、それに伴う根拠が不十分な結論などが散見された。探究スキルをはじめとする資質・能力を一層育成する指導方法の研究が課題である。